



高岡の魅力を積極的に発信し、 たくさんの人が訪れるようになっている

1 観光資源の発掘と保存・活用



現状と課題

- 市内には、文化財や自然などの観光資源が多くあることから、それらを磨き、つなぎ、発信することが必要となっています。また、様々なイベントへの市民参加のあり方や開催方法を検討する必要があります。
- 高岡らしい「食」のブランド化や土産品の開発、ものづくりの文化を活かした産業観光に取り組む動きが広がっています。



施策の展開

文化資産等を活かした観光振興

- 市内に点在している様々な歴史・文化資産や豊かに広がる自然景観など、多様な素材を再評価し、観光資源として活用します。
- モデルルートの作成や旅行商品開発に努めるとともに、来訪者や観光客にわかりやすい誘導サイン等の整備・充実を図ります。
- 歴史・文化資産、体験、食等エリアの魅力を発信し高岡大仏から山町筋、金屋町への“まち歩きを楽しめる”観光を推進します。
- 高岡を代表する祭りやイベントを支援し、活性化を図るなど、高岡の魅力を高めます。
- 万葉まつりや万葉歴史館の活用により、万葉のふるさと高岡を全国にPRし、万葉のふるさとづくりを推進します。また、勝興寺や雨晴海岸といった北部地域の魅力との相乗効果を図ります。
- 観光施設周辺において、観光インフラの整備や飲食店、土産物店などへの開業を支援し、観光地としての魅力を高めます。
- 歴史・文化、ものづくりなど高岡の強みをはじめ、多種多様な地域資源を活かし、観光客の満足感や再訪への意欲を高めることで、リピーターの増加及び関係人口の創出を図ります。

歴史・文化資産の保存と活用

- 国宝瑞龍寺、重要文化財勝興寺、山町筋、金屋町、高岡城跡などの貴重な歴史・文化資産の保存と観光資源としての機能充実を図るとともに、日本遺産のストーリーを活かした回遊する仕組みづくりに取り組みます。



自然景観の保全・活用

- 観光地として親しまれている雨晴海岸や二上山、西山丘陵、庄川、小矢部川などの良好な自然景観の保全・活用に努めます。

高岡ブランドの開発

- 商工会議所、商工会、民間事業者との連携を図りながら、高岡の伝統産業やアルミ産業、農産物加工や食品産業を活かした高岡ブランドの開発を推進します。
- 高岡らしさを感じることで「食」のブランド化や土産品の開発を支援します。

産業観光の推進

- 高岡地域地場産業センターをはじめとして、伝統産業や近代産業の製造現場の見学やものづくり体験等を観光素材として活用するため、地元受け入れ企業とのマッチング、体験プログラムの充実等を推進します。

主な事業

文化資産等を活かした観光振興	・祭礼行事、イベント等の開催に対する支援 ・商店街や観光地等における開業支援 ・官民連携による地域振興施設の活用
高岡ブランドの開発	・高岡食ブランドの活性化

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
高岡市の観光客入込数	3,850千人／年 (H30)	3,965千人／年
市内主要観光地入込客数	223千人／年 (H30)	230千人／年
旅行プログラムの販売者数	1,271人／年 (H30)	1,900人／年



高岡の魅力を積極的に発信し、 たくさんの人が訪れるようになっている

2 広域観光の推進



現状と課題

- 高速交通網の整備に伴い、観光の広域化が進展しています。このため、各地域との連携のもと、観光資源を二次交通でつなぐことで、広域での魅力を高め、滞在時間の延長を図る必要があります。
- 「飛越能の玄関口」としての役割を果たすため、近隣地域との連携を強化し、圏域が一体となった観光振興を主導することが求められています。
- 北陸新幹線金沢・敦賀間開業、大阪全線開業に向け高岡の知名度をさらに高めていく必要があります。
- 現在、飛越能経済観光都市懇談会や富山県西部地区観光協議会など広域連携組織を設置し、共同で事業を展開しています。
- 観光趣向の多様化に対応し、地域の特徴を活かした観光テーマの設定と売り込み、きめ細やかな観光サービスの提供が求められています。



施策の展開

広域観光の推進

- 飛越能圏域の各地域との連携により、圏域内の観光地を巡る広域的な二次交通の利便性向上やモデルルートの売り込み、旅行商品開発などに取り組み、観光客を呼び込みます。
- 観光資源を活用した体験・滞在型プログラムの開発を支援して、高岡の魅力を高めます。
- SNS※1やOTA※2などを活用し、効率的かつ効果的なプロモーションを展開します。

観光情報施設の充実

- 「飛越能の玄関口」としての役割を果たすため新高岡駅観光交流センターの機能充実を図るとともに、道の駅などの観光情報施設の効率的な運営を進めます。

※1
Social Networking Serviceの頭文字をとったもので、FacebookやTwitterなど、インターネット上の交流を促進するための様々なサービスのこと。

※2
Online Travel Agentの頭文字をとったもので、インターネット上だけで取引を行う旅行会社のこと。



北陸新幹線金沢・敦賀間、大阪全線開業に向けたPR・誘客

- 金沢・敦賀間の開業を契機に関西圏との一層の交流拡大を図るため、関西圏へ飛越能地域の魅力をPRします。
- 金沢・敦賀間開業に向け、地域間の連携による「ものづくり」をテーマとした旅行ルートの開発など北陸エリア全体を周遊する広域観光の構築を進めます。
- 校外学習に適した市中心部の資源を活かし、教育旅行の誘致を進めます。

主な事業

広域観光の推進

- ・ 個人・団体旅行の誘致促進
- ・ ユネスコ無形文化遺産登録に登録されている飛越能地域の自治体と協力・連携した魅力発信

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
旅行プログラムの販売者数(再掲)	1,271人／年 (H30)	1,900人／年



新高岡駅



世界遺産バス



高岡の魅力を積極的に発信し、 たくさんの人が訪れるようになっている

3 イメージアップ・誘致活動の強化



現状と課題

- 観光客をはじめとする来訪者に心地よく滞在してもらうには、行政はもとより、市民一人ひとりが高岡の歴史・文化・自然などその良さを知り、もてなしの心を持って、来訪者を迎えることが求められています。
- 新高岡駅は「飛越能の玄関口」として、飛騨・能登地域をはじめ、国内外にさらに発信していく必要があります。
- 受け入れ体制づくりにあわせ、様々なメディアや情報化社会に対応した情報発信に努め、誘客促進や関係人口の創出を図る必要があります。



施策の展開

もてなしの心の醸成

- 観光案内人の養成・スキルアップのための研修機会の提供や観光情報の共有化等により、意欲ある観光関連事業者や観光ボランティアの活動を支えるとともに、企業や市民への啓発などを通じ、まち全体として観光客をもてなす体制を整えます。
- 国内外からの観光客にわかりやすい多言語による誘導・案内、共通フリーきっぷなどの二次交通の充実に努めます。また、北陸新幹線ダイヤ、新高岡駅からのモデルルートなど利用者向けの情報を発信していきます。

多様な手段による情報発信

- 県外への出向宣伝や雑誌掲載、番組放送、ホームページ・SNS等を利用したメディアミックスによる情報発信に取り組みます。
- 「日本遺産のまち高岡」や「万葉のふるさと高岡」を形成する豊富な歴史や文化的資産、ものづくりの伝統や体験メニュー、食、自然景観をストーリー化して全国に発信し、イメージアップを図り、新高岡駅が「飛越能の玄関口」であることを市の内外に広く周知・宣伝し、市民の意識醸成を図るとともに、誘客促進や関係人口の創出を推進します。
- DMO※1や観光協会との連携を強化し、旅行商品の造成や出向宣伝、観光パンフレットの作成等様々な手法で観光客の誘致活動を推進します。
- 動画・画像を活用した旅マエ情報提供の強化やAR※2・VR※3を活用した魅力発信によるデジタル化の推進を図ります。

※1
Destination Management/Marketing Organizationの頭文字をとったもので、地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。

※2
Augmented Realityの頭文字をとったもので、目の前にある現実世界にコンピューターで作られた映像や画像を重ね合わせ、現実世界を拡張する技術のこと。

※3
Virtual Realityの頭文字をとったもので、現実にはない世界又は体験し難い状況をCGによって仮想空間上に作り出す技術のこと。



シビックプライドを活用したシティプロモーション

- メディアの特性を活かした情報手段により高岡のまちの魅力を発信し、市民一人ひとりにその良さを再認識してもらい、高岡に誇りや愛着を持つシビックプライドの醸成を図ります。また、シビックプライドを持つ市民が、能動的に多くの人と結びつきながら多方面に広がりを持つようなシティプロモーションを展開します。

主な事業

多様な手段による情報発信

- ・観光客誘致のための県内外でのPR活動の推進
- ・SNS等を活用した高岡の魅力発信
- ・ふるさと納税制度を活用した商品ブランドの発信

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
観光ボランティアによるガイド件数	978件／年 (H30)	1,000件／年
市HPのアクセス件数	5,350千件／年 (H28～R2平均)	5,610千件／年

交流・観光



観光ボランティアガイドによる観光案内



県外での観光PR



高岡の魅力を積極的に発信し、 たくさんの人が訪れるようになっている

4 国内・国外交流の推進



現状と課題

- 高岡市では、歴史・文化・産業など関係の深い都市との交流を行っています。
- 高岡市では、姉妹・友好都市などと国際親善交流を深めているほか、日口沿岸都市との交流会議に参加するなど環日本海交流に努めています。
- グローバル社会における地域づくり、人づくりが重要となっており、国際理解を深める取り組みを進める必要があります。
- 万葉のまちとして全国の万葉故地との交流が続けられているほか、日本遺産の認定を受けている都市間などでの全国規模の交流が展開されています。
- 市民による交流活動も活発に行われており、市内のいくつかの高校では、姉妹校や友好校との相互交流やホームステイを中心とした語学研修、修学旅行などを通じた交流活動が実施されています。



施策の展開

都市間交流の推進・交流人口の拡大

- 万葉故地や日本遺産などの縁で現在交流している都市との交流を一層促進するとともに、北陸新幹線や高速道路網でつながる沿線都市を中心に、高岡市と歴史・文化・産業などで関わりのある新たな都市との交流を促進します。
- コンベンション※1をはじめとするMICE※2の開催支援や豊富な文化・観光資源のアピールを通じて、各種団体や学会の全国大会・ブロック大会、スポーツ大会の誘致に努め、交流人口の拡大を図ります。

多様な交流活動の促進

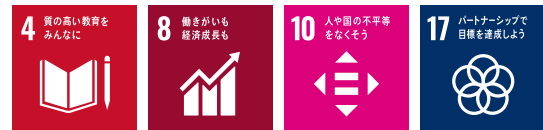
- 姉妹・友好都市などとは、文化、教育、スポーツ、経済等の分野での訪問団の派遣・受入やICTを活用した情報発信、相互のイベントへの参加など交流活動を推進します。
- 国際視野を持つ青少年の育成を図るため、海外への派遣・受入を実施します。
- 市民主体の交流が活発に行われるよう支援します。
- 県外の高等教育機関との連携を活かし、海外の言語や文化を学び独自の感性を持つ学生と市民との協働により、国際理解に深い人材の育成を図ります。

※1

他の地域からのモノ、ヒト、情報の交流をもたらす学会、大会、会議、修学旅行、合宿及びスポーツ大会など。

※2

Meeting: 会議・セミナー、Incentive: 招待・視察、Convention: コンベンション、Exhibition: 展示会の頭文字をとったもので、他の地域からのモノ・人・情報の交流をもたらす各種行事。



主な事業

都市間交流の推進・交流人口の拡大	・コンベンションの誘致・支援
多様な交流活動の促進	・姉妹都市、友好都市との交流の推進 ・越前国際交流基金を活用した留学生の派遣・受入

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
大規模コンベンションの市内開催件数	30件／年 (H30)	33件／年



万葉故地との交流(梅花の宴の再現)



ポーランドレスリング選手団による合宿



高岡の魅力を積極的に発信し、 たくさんの人が訪れるようになっている

5 インバウンドの推進



現状と課題

- 日本を訪れる旅行者が年々増加しており、本市においても北陸新幹線の開業を契機に外国人観光客が増加傾向にありますが、新型コロナウイルスの影響により、各国の日本への入国が制限される等、訪日外国人が大幅に減少しています。
- 外国人観光客を受け入れる態勢はまだ不十分であり、もてなし環境の改善が求められています。
- 高岡市及び周辺地域の文化資産や豊かな自然等を活かして、外国人観光客の誘致に努める必要があります。



施策の展開

外国人観光客誘致の推進

- 県や近隣自治体、観光協会等と連携しながら、観光情報サイトの活用やSNS等での情報発信により、台湾を中心とする外国人観光客の誘致を図ります。
- 外国語パンフレットの製作や観光ポータルサイトの外国語情報の充実等多言語対応力の向上、キャッシュレス化の推進など、受入環境の充実に努めます。

主な事業

外国人観光客誘致の推進

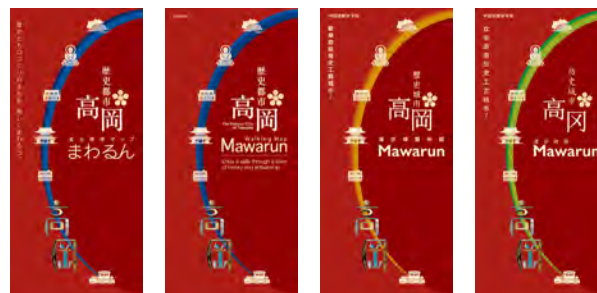
・インバウンド誘致活動の推進、プロモーション活動への支援

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
市内外国人宿泊者数	10,511人／年 (H30)	15,000人／年



外国人モニターツアー



まち歩きマップ まわるん 多言語版



生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている

1 商業・サービス業の振興



現状と課題

- 卸売業を取り巻く環境は、小売業における年間商品販売額の減少や流通構造の変化などに伴い、厳しいものとなっています。
- 小売業を取り巻く環境は、先行き不透明な景気動向への不安感や、情報通信分野の進展に伴う消費構造の変化などにより、商店街における転廃業が増加するなど、厳しいものとなっています。
- 県西部における大型商業施設の出店や増床により、中心商店街等への影響が懸念されています。
- 店舗の郊外化やeコマースの急速な普及など、商業環境が大きく変化するなか、まちなかの賑わいを維持していくため、商業機能の集積による、賑わいの核づくり、訪れる目的づくりが必要となっています。
- 外国人旅行者向けの消費税免税対象品目が全品目に拡大され、地域の特産品等も対象となったことから、免税店を拡大し地域経済の活性化につなげるが必要となっています。
- キャッシュレス決済の普及により、消費者の利便性の向上、店舗の効率化・売上拡大、データの利活用など、様々な効果が期待されています。



施策の展開

卸売業の強化

- 問屋センター等の卸売業団体の活動等を支援し、地域に根ざした卸売業の活性化を図るとともに、流通業務機能の向上に努めます。
- 地方卸売市場の売買参加者の増加促進に努め、市場内流通量の増加、市場の活性化に取り組みます。

地域と商店街との連携促進

- 地域コミュニティと商店街との連携を促進し、交流の場としての商店街づくりに努めるとともに、商店街が取り組む空き店舗対策を支援し、商店街の活性化を図ります。
- 商工会議所・商工会の経営指導・相談事業や創業人材育成事業、地域商店街活性化事業、情報通信を活用した販路開拓事業等を支援し、地元事業者等の経営安定と商店街の振興を図ります。また、商工団体等の賑わいと魅力あふれるまちづくりへの取り組みを支援します。



創業活動の促進

- 商店街の空き店舗や空き家を活用した、物販・飲食・サービス業やオフィスの新規開業支援の充実を図り、新分野進出・新規創業による創業活動の活性化を促進します。
- リノベーションまちづくり事業の実施を通じ、起業や独立開業への機運を醸成するとともに、実事業化に向けたフォローアップを行います。

商店街等への商業集積

- 商店街等で新規開業する方などを、資金面・経営面で支援し、商業機能の充実・集積による「賑わいの核づくり」を推進します。

小売店等の免税店化の促進

- 免税店の開設を促進するため、必要な環境整備や外国人旅行者向けの周知等を支援します。

キャッシュレス決済の普及促進

- 事業者・消費者双方におけるキャッシュレス化を推進することで、日常の商取引の円滑化やコスト削減を図るとともに、消費喚起や販売促進を後押しし、生産性・利便性の向上を図ります。

主な事業

地域と商店街との連携促進	・ 商工団体等への支援
創業活動の促進	・ 商店街や観光地等における開業支援(再掲) ・ リノベーションまちづくりの推進

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
開業件数(累計)	—	60件 (R4～R8までの累計数)



生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている

2 中心市街地活性化の推進



現状と課題

- 中心市街地は、商業・業務、公共公益施設、高岡駅を中心とする公共交通機関等が集積し、様々な都市機能を担っている「高岡の顔」といべき地域です。コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりによる持続可能な都市構造への転換が求められており、都市機能の更なる集約により、賑わいの核を生み出していく必要があります。
- 市内外から買い物客が訪れ、魅力と賑わいのある商店街づくりのため、空き店舗の解消や既存店舗への支援等に取り組む必要があります。
- 中心市街地に豊富にある歴史・文化資産を保存・活用し、市民や観光客が中心市街地を訪れるための取り組みが必要となっています。
- まちなかの居住人口を増加させるため、共同住宅の整備促進をはじめ都市機能の充実が必要となっています。
- 百貨店の撤退後の御旅屋セリオでは、新規テナント入居や公益的機能の導入等により、賑わいが生み出されてきており、今後新たな魅力を創出することで、さらなる活性化を図る必要があります。

※1
道路、港湾、下水道、公園、通信、郵便、空港、ダムなど国民経済全体の基礎としてその円滑な運営を実現するため、毎年の公共投資によって形成されてきた集積量。

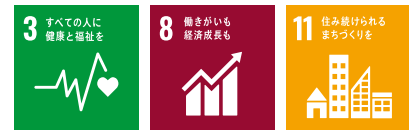
※2
教育文化施設、医療施設、社会福祉施設その他の都市の居住者等の共同の福祉又は利便のため必要な施設。



施策の展開

まちなか居住の推進

- 少子高齢化に対応するため、既存の社会資本ストック※1を利活用しながら都市福利施設※2の整備や公共交通の利便性の向上を図るなど、商業以外の要素も含めて市街地の再生に努め、まちなか居住を推進します。
- 中心市街地においては、土地の流動化を図るため地籍調査を推進するとともに、民間の再開発手法等による共同住宅の供給促進を支援することにより、快適で安全な居住環境づくりに取り組みます。
- まちなか居住の推進にあたり、都市圏住民の地方暮らしへの関心の高まりも視野に、移住施策と連携を図りながら、まちなか居住を支援します



商店街の活性化の促進

- 空き店舗の改装・改修等に対する補助など、空き店舗が魅力ある店舗に生まれ変わる活動を支援します。
- 地域商店街やまちづくり会社などの連携・協力により、定期的なイベントの開催や地域商店街の魅力を高める具体的方策について研究し、実施することで、市民が集う交流の場として高岡らしい商店街づくりを推進します。
- まちの賑わいの創出に向けて活動している若手や女性事業者などに対する支援を行います。

創業活動の促進

- リノベーションまちづくり事業の実施を通じ、起業や独立開業への機運を醸成するとともに、実事業化に向けたフォローアップを行います。(再掲)

中心市街地の核となる施設に対する支援

- 高岡駅前の核施設であるステーションビルや駅前地下街の機能向上を図るための支援を行い、高岡駅北口交流広場の活用や高岡駅前東地区の整備と一体となった高岡駅前の賑わい創出を図ります。
- 中心市街地の核となる施設の整備・管理・運営に対し支援を行い、中心市街地の回遊性の向上やまちの賑わいづくりを推進します。
- 御旅屋セリオが、多様な目的を持つ市民による交流を促進する場として、中心市街地に訪れる人の多様な目的に応えられるよう、官民一体となり、賑わいが生まれる拠点づくりを図ります。
- 中心市街地に常設された「Takaoka ePark」を活用し、まちなかの活性化を図ります。また、多くの世代が親しむことができるeスポーツについては、健康増進などを目的とした取り組み等へも活用の幅を広げていきます。

まちづくり活動への総合的な支援

- まちづくり会社や高岡市中心市街地活性化協議会※3等による商店街の活性化、空き店舗・町家の再生、利活用といったまちづくり活動を総合的に支援します。

歴史・文化資産の保存と活用(再掲)

- 国宝瑞龍寺、重要文化財勝興寺、山町筋、金屋町、高岡城跡などの貴重な歴史・文化資産の保存と観光資源としての機能充実を図るとともに、日本遺産のストーリーを活かした回遊する仕組みづくりに取り組みます。

※3

中心市街地の活性化に関する法律で定められた中心市街地の活性化に関する事業の推進及び市町村が作成する基本計画などについての協議を行うため、民間事業者、団体等が主体となって構成された機関。

主な事業

まちなか居住の推進	・まちなか及び居住誘導区域における住宅取得、住宅リフォームに対する支援 ・地籍調査の推進 ・高岡駅前東地区等の整備の推進
商店街の活性化の促進	・中心市街地の賑わい創出活動に対する支援
まちづくり活動への総合的な支援	・リノベーションまちづくりの推進(再掲)

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
中心市街地における歩行者・自転車通行量(1日当たり)	10,149人／日 (R2)	15,000人／日
たかおか暮らし支援事業(まちなか区域)に伴う定住人数	60人／年 (H25～H27平均)	60人／年



リノベーションにより開業した複合商業施設(左:山町ヴァレー 右:サカサカ)





生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている

3 市街地の整備



現状と課題

- 都市機能などが集中し、人々の交流の場でもあった中心市街地における賑わいが低下しているため、中心市街地が持つ拠点性を活かし、人々の新たな交流を創出する必要があります。
- 中心市街地においては、生活利便施設の誘導や宅地の利用増進など、良好な居住環境の形成を図る必要があります。
- 中心市街地においては、公団混雑地が多く土地取引が円滑に進まない状況にあります。また、築50年を超える老朽建物や木造住宅が密集しており、防災性の向上を図る必要があります。



施策の展開

中心市街地の整備

- 高岡駅周辺地区が賑わいの核となり、さらに拠点性を高めるために高岡駅前東地区の整備推進に取り組み、まちなか居住の推進や民間活力を有効活用し、商業・業務や交流機能を中心とした多様な高次都市機能の集約を図り、歩いて楽しいまちづくりに努めます。
- 中心市街地において、高岡らしい風情やたたずまいに配慮しながら、居住環境と安全性の確保の両立を目指した安心して住み続けられるまちづくりに取り組みます。
- 景観や環境に配慮した幹線道路や公共建築物等の整備により、魅力的な都市空間の創出を図ります。
- 中心市街地においては、土地の流動化を図るため地籍調査を推進するとともに、民間の再開発手法等による共同住宅の供給促進を支援することにより、快適で安全な居住環境づくりに取り組みます。(再掲)

周辺市街地の生活基盤整備

- 歴史や文化などの各地域の特性を活かしたまちづくりに向けて、充実した生活圏の形成とそれぞれの地区にふさわしい生活サービス施設を配置するため、土地区画整理事業の実施や民間主導による開発を促進するとともに、地区計画等を活用して計画的な住宅や生活利便施設などの整備を誘導します。



主な事業

中心市街地の整備	・地籍調査の推進(再掲) ・高岡駅前東地区等の整備の推進(再掲) ・歩いて楽しいまちづくりの推進
周辺市街地の生活基盤整備	・福岡駅前土地区画整理事業の推進

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
居住誘導区域内の人口密度	40人/ha (H27)	40人/ha



福岡駅前



高岡駅周辺



生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている

4 住宅・宅地の整備



現状と課題

- 持続可能な都市を目指し、中心市街地や周辺市街地に居住を誘導し、一定の人口密度を維持する必要があります。このため、まちなかの活性化と周辺市街地への定住促進を図り、居住ニーズに応じた誰もが安心して住み続けられる良質な住宅の供給促進に努める必要があります。
- 市営住宅においては、約7割が築年数30年を経過しており、施設の老朽化が進んでいます。また、人口減少が進む中で将来的に市営住宅の過剰供給が想定され、それらへの対応の必要があります。
- 利活用されずに適正な管理が行われていない空き家の増加に対応するため、防災、防犯、衛生、景観等の問題の解消や適切な管理を促進していく必要があります。



施策の展開

定住化のための住宅支援の推進

- まちなかでの民間の再開発手法による共同住宅の供給促進や、まちなか及び周辺市街地での住宅取得・リフォームなどへの支援制度を充実します。
- バリアフリー住宅等の建設を促進するため、高齢者住宅改善資金の助成などを行います。
- まちなか居住の推進にあたり、都市圏住民の地方暮らしへの関心の高まりも視野に、移住施策と連携を図りながら、まちなか居住を支援します。(再掲)

空き家対策の推進

- 空き家等実態調査の実施や空き家・空き地情報バンク等による空き家の情報提供、空き家の活用に関する支援等を効果的かつ効率的に推進し、適切な管理や利活用の促進に向けた取り組みを総合的かつ計画的に実施します。

市営住宅の適正な維持管理

- 市営住宅の需給バランスを考慮し、計画的な再編を進め、併せて施設の長寿命化に資する外壁改修等の住戸改善を進めていきます。



主な事業

定住化のための住宅支援の推進	・ まちなか及び居住誘導区域における住宅取得、住宅リフォームに対する支援(再掲)
空き家対策の推進	・ 空き家等の利活用支援、老朽危険空き家除却支援 ・ 地域における移住者の受入に資する活動への支援、企業の市外からの人材確保に対する支援
市営住宅の適正な維持管理	・ 市営住宅の住戸改善

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
たかおか暮らし支援事業(まちなか区域)に伴う定住人数(再掲)	60人／年 (H25～H27平均)	60人／年
老朽危険空き家除却支援件数	5件／年 (H27平均)	10件／年



生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている

5 良好な都市景観の創出



現状と課題

- 高岡市には固有の歴史や伝統、文化、風土などの優れた地域特性があり、それらを活かした景観づくりに取り組む必要があることから、景観形成重点地区、景観づくり住民協定地区を指定し、市民・事業者・行政が一体となって魅力ある景観まちづくりに取り組んでいます。
- 本市は県西部の中核都市として、また観光交流拠点としても魅力ある都市空間を形成していく必要があります。
- 景観形成に影響のある屋外広告物は、富山県屋外広告物条例に基づき規制・誘導を図る必要があります。



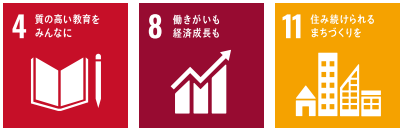
施策の展開

美しい都市景観の形成と景観計画の推進

- 恵まれた美しい自然や風土、歴史と文化、魅力ある市街地や特徴ある産業の場、交流の拠点がつくる高岡らしい景観を保全・活用し、美しい都市景観の形成を目指します。
- 景観形成重点地区については、高岡市景観計画に基づき、地区内の修景整備を促すとともに、市民と一体となって地域の特性を活かした景観まちづくりを推進します。
- 魅力ある都市空間を形成するため、景観に配慮した空間整備の促進を図ります。
- 景観形成市民団体の育成・支援を行い、景観まちづくりに市民が積極的に参加できるよう、意識の醸成を図ります。

屋外広告物の適正化

- 市民・事業者の協力により、地域特性や周辺景観と調和した屋外広告物となるよう規制・誘導を図ります。
- 条例に違反して設置されている屋外広告物については、広告主等に対する指導等必要な措置を講じ、良好な景観の形成を図ります。



主な事業

美しい都市景観の形成と 景観計画の推進	・ 景観形成重点地区等における建物修景等に対する助成
屋外広告物の適正化	・ 広告主等への指導・助言

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
違反広告物等の是正件数	10件／年 (R2)	10件／年



旧北陸街道福岡



池の端通り



交通ネットワークを活かし、 県西部の中核的役割を果たしている

1 高岡駅・新高岡駅の周辺整備



現状と課題

- 高岡駅周辺地区においては、民間再開発事業を中心としたまちづくりを推進しており、今後さらなる高次都市機能の集約を進めて行く必要があります。
- 新高岡駅は新幹線や高速バス路線網の整備に伴い、「飛越能の玄関口」としての役割を担っており、さらなる交流促進のため、県西部地域が一体となって利用促進策に取り組む必要があります。
- 北陸新幹線の大阪開業をにらみ、新高岡駅周辺における土地利用の再検討の必要があります。
- 広域交流拠点である新高岡駅と県西部地域交流拠点である高岡駅の二つの拠点を結び、一体的かつ連携したまちづくりを進めていく必要があります。



施策の展開

高岡駅を核とした周辺整備

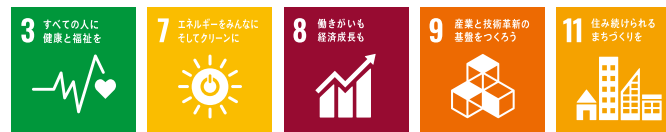
- 高岡駅周辺地区が賑わいの核となり、さらに拠点性を高めるために高岡駅前東地区の整備推進に取り組み、まちなか居住の推進や民間活力を有効活用し、商業・業務や交流機能を中心とした多様な高次都市機能の集約を図り、歩いて楽しいまちづくりに努めます。(再掲)

新高岡駅を核とした周辺整備

- 広域的な交通結節点としての機能強化を図るため、商業・交流機能を中心とした高次都市機能の維持・誘導を図るとともに、市街地外において都市的土地利用と農業的土地利用の調和のとれた土地利用を進めます。
- 北陸新幹線の大阪延伸をにらみ、民間の意向や市場の動向も踏まえつつ、民間事業者等の資金やノウハウを活用した効果的な整備・管理手法などを取り入れます。
- 広域からのアクセスの強化及び周辺の交通の円滑化のため、ボトルネックの解消や交差点改良など主要幹線道路の整備を推進します。

北陸新幹線の利用促進

- 北陸新幹線金沢・敦賀間開業に向けて、魅力あるまちづくりを進めるとともに、移動の少人数化など、旅行の変化を踏まえた受け入れ態勢の充実、関西方面への情報発信や誘客の強化に継続して取り組みます。



主なゴールを掲載

- 県西部の関係団体と連携し、「かがやき」定期便の新高岡駅停車に向け目的を共有して、積極的に利用促進策を展開するとともに、新高岡駅が県西部地域の広域交流拠点として機能集積を進め、イベントの開催など駅周辺エリアでの交流拡大の取り組みを実施することで、新高岡駅利用者の総ボリュームの増大に取り組めます。

新高岡駅周辺から中心市街地までの一体化

- 新高岡駅周辺から中心市街地が都心エリアとして一体的に賑わいが創出されるよう、城端線の増便やバス路線の強化によるアクセス機能の向上を図るとともに、民間主導による開発を促進し、新高岡駅周辺から高岡駅を結ぶ軸線上を中心に、沿道サービス施設や業務施設の集積を図り、歩いて楽しいまちづくりを推進します。

主な事業

高岡駅を核とした周辺整備	・ 高岡駅前東地区等の整備の推進(再掲) ・ 歩いて楽しいまちづくりの推進(再掲)
新高岡駅を核とした周辺整備	・ 広域道路ネットワークを補完する幹線道路等の整備
北陸新幹線の利用促進	・ 新高岡駅の利用促進 ・ 個人・団体旅行の誘致促進(再掲)

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
高岡駅・新高岡駅の利用者数	11,970人／日 (R元) 8,666人／日 (R2)	13,000人／日



交通ネットワークを活かし、 県西部の中核的役割を果たしている

2 高速道路網・幹線道路網・地域公共交通体系の整備



現状と課題

- 能越自動車道の高岡ICから小矢部砺波JCTの有料区間は、料金所が統合され利便性が向上したことで交通量が増加していますが、高岡IC以北では暫定2車線となっています。また、管理者は有料区間と無料区間で異なっています。
- 東海北陸自動車道の飛騨清見ICから小矢部砺波JCT間の一部を除き4車線化事業が進められています。
- 幹線道路の充実を図ることは、地域産業を物流面から支援するだけでなく、豪雨や豪雪、大地震等の災害時においても安定的な人流・物流の確保につながることから、近隣都市へのアクセス強化、駅や高速道路のインターチェンジ、港へのアクセス向上など、広域的な道路網の整備を進める必要があります。
- 高岡駅はあいの風とやま鉄道、城端線・氷見線、万葉線、路線バスによって県西部地域を結ぶ地域交通結節点としての重要な役割を担っており、その機能を強化する必要があります。
- 人口減少が進む中であって、今後、都市機能の集約を図り、公共交通を基盤とする市民生活への転換を推進し、将来にわたる公共交通の維持向上を図る必要があります。



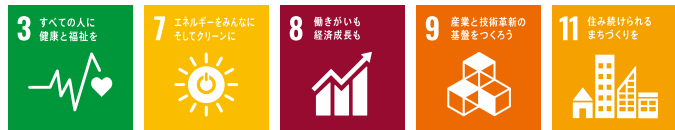
施策の展開

能越自動車道の整備促進

- 高岡IC～氷見ICの4車線化及び国による維持・管理の一元化など利用者の利便性向上対策の実施を国など関係機関に働きかけます。
- 福岡パーキングエリアを利用したインターチェンジの整備を進めていきます。

東海北陸自動車道の整備促進

- 全線4車線化の早期完成を国など関係機関に働きかけます。



※1
富山県新広域道路交通
ビジョン・新広域道路交
通計画において、広域
的な道路交通の基本方
針に記載され、高規格
道路として位置付けら
れた道路。

※2
Light Rail Transitの頭
文字をとったもので、低
床式車両（LRV）の活用
や軌道・電停の改良に
よる乗降の容易性、定
時性、速達性、快適性な
どの面で優れた特徴を
有する次世代の軌道系
交通システム

※3
「過度に自動車に頼る
状態」から、「公共交通
や徒歩などを含めた多
様な交通手段を適度に
利用する状態」へと少し
ずつ変えていく一連の
取り組み。

道路網の整備促進

- 高岡市と近隣都市を結ぶ道路や広域交通結節点（駅、インターチェンジ、港）へのアクセス道路、地域間の連携を支える高規格道路高岡環状道路※1等の広域的な道路の整備を促進します。
- 電柱の倒壊により幹線道路網の交通が遮断されないよう無電柱化整備を促進します。

公共交通機関の機能充実

- 大都市圏・飛越能地域とを結ぶ広域交流軸の強化や、広域交流拠点としての環境充実を図り、都市の成長を高める広域交通体系の活用を促進します。
- 県西部地域を南北につなぐ城端線・氷見線について、県や沿線市とともに安全で持続可能な公共交通の実現に向けて、直通化を含めたLRT※2化などの検討を進めます。
- 中心市街地と高岡駅、新高岡駅を結ぶ都心軸や都心エリアと周辺地域とをつなぐ拠点間連携軸など鉄軌道や路線バスによる公共交通体系を維持しながら、地域の年齢構成や地理的特性に応じた市民協働型地域交通システムの導入を推進し、コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりを推進します。
- 沿線住民の生活を支える万葉線に全国相互利用可能な交通系ICカードの導入を支援するなど、利用者サービスの向上や公共交通間の乗り継ぎ利便性の確保に取り組みます。
- 交通施設のバリアフリー化や情報提供手法の改善など利便性の向上を図るとともに、公共交通等を活用した賑わいの創出を図り、安全・安心で利用しやすい公共交通サービスを提供します。
- マイレール、マイバス意識の醸成、モビリティ・マネジメント※3の実施により、市民一人ひとりが公共交通を利活用し、守り育てるライフスタイルへの転換を進めます。



高岡砺波SICパンフレット



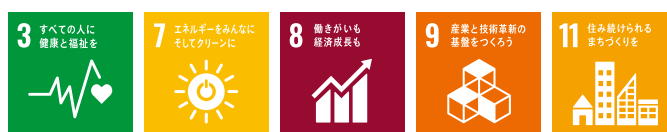
万葉線

主な事業

能越自動車道の整備促進	・能越自動車道福岡パーキングインター化に向けた取り組みの推進
道路網の整備促進	・幹線道路の整備
公共交通機関の機能充実	・駅・生活路線バスの利用促進 ・万葉線の運行支援 ・市民協働型地域交通システムの推進 ・あいの風とやま鉄道の運行支援、駅のバリアフリー化の推進 ・城端線の増便、べるもんだでのおもてなし等 ・城端線・氷見線のLRT化など持続可能な交通体系の検討

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
公共交通利用率	8.40% (R2)	16.0%
都市計画道路整備率	81.6% (R2)	82.4%





交通ネットワークを活かし、 県西部の中核的役割を果たしている

3 港湾の整備・活用



現状と課題

- 伏木港は、国内外の人、物の交流を活発にするため、取扱貨物量やクルーズ船の寄港を増やす必要があります。また、近年は災害時における太平洋側主要港湾の代替機能の一翼を担うことも期待されています。
- 伏木港がクルーズ寄港地に選定されるよう、背後地観光等の利便性を高めるとともに、おもてなし事業を充実させ、魅力の向上を図る必要があります。
- 伏木外港の利用を促進するため、船舶の大型化・多様化に対応したさらなる港湾機能の強化が必要となっています。
- 万葉埠頭では新規に企業が進出するなど土地利用が着実に進んでいるものの、港湾機能をより一層発揮するためには、さらなる利活用の促進が課題となっています。



施策の展開

伏木外港の建設促進

- 伏木外港の建設促進と港湾機能の充実により、RORO船※1に代表される海陸一貫輸送など物流ネットワークの多様化に対応した、環日本海交流の拠点と世界に拓かれた国際貿易港としての機能強化を国・県に働きかけます。

ポートセールス※2の強化

- クルーズ船や定期貨客船、RORO船等の入港を促進し、人と物の交流の活性化を進めるため、県や商工団体等と連携した船舶会社や荷主企業を対象とするポートセールスを強化します。

ウォーターフロント整備促進

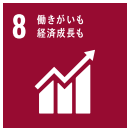
- 魅力あるウォーターフロント(快適で親しまれる港湾空間)や、国際化に対応した港湾背後地の整備を促進します。

※1

トレーラーなどの車両を収納する車両甲板を持ち、自走で搭載、揚陸できる構造の貨物船。

※2

港湾振興関係者が、その施設やサービスの充実を図り、港湾利用の開拓や拡大を目指して展開する活動。



クルーズ船受入態勢の充実

- クルーズ船社や乗船客に伏木港が良い印象となるよう、国、県など関係機関と連携し、利便性の向上や魅力的な観光メニューの創出、歓迎イベントなどおもてなし事業のさらなる充実を図ります。
- クルーズ船客の安全・安心の確保を図るとともに、さらなる受入環境の整備を国・県に働きかけます。

主な事業

伏木外港の建設促進	・ 伏木外港建設促進団体等への支援
ポートセールスの強化	・ 関係機関等と連携したポートセールス活動の推進
クルーズ船受入態勢の充実	・ クルーズ船の受入環境の整備、クルーズ船寄港地観光バス等への支援

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
クルーズ客船の寄港回数	4隻／年 (H30)	15隻／年



伏木外港とクルーズ船



交通ネットワークを活かし、 県西部の中核的役割を果たしている

4 広域連携の推進



現状と課題

- 県西部6市では、全国的に人口減少・少子高齢化が進行する中、一定の圏域人口と活力ある社会経済を維持・向上させるため、「連携中枢都市圏」などの取り組みを推進しています。
- 高岡市、氷見市、小矢部市では高岡地区広域圏事務組合を設置し、ごみ処理の適正処理（共同処理）や広域観光の推進、郷土愛を育む各種体験・交流等、広域的な事業を実施しています。
- 近隣自治体と防災、し尿処理、道路整備など様々な分野で連携に努めています。
- 東西と南北に広がる広域交通網により県西部の各市をつなぐとともに、県西部と三大都市圏を結ぶ交通の要衝であり、県西部地域の中核都市として、地域全体を活性化させる役割が期待されています。



施策の展開

連携中枢都市圏の取り組みの推進

- 第2期とやま呉西圏域都市圏ビジョンに基づいて、「圏域全体の経済成長のけん引」「高次の都市機能の集積・強化」「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」を目的として、各連携事業に取り組みます。
- 都市圏ビジョンの推進に当たっては、県西部6市がそれぞれ持つ個性や特性を活かすとともに、圏域の発展に向けて連携を深めることなどにより、取り組みのシナジー効果を高めます。
- 同一の生活圏・文化圏を持つとやま呉西圏域の暮らしの魅力を一体的に発信することで、圏域における交流人口の拡大や移住・定住の促進を図ります。

多様な枠組みによる連携の推進

- 高岡地区広域圏事務組合における広域活動計画を着実に推進します。
- 広域連合や他市との協議会設置など多様な仕組みを活かし、住民サービスの維持・向上につなげます。
- 県西部6市がそれぞれ持つ既存の施設・機能を活かした共同利用・共同設置を図ります。



県西部の中核都市としての拠点性向上

- 中枢中核都市として、県西部地域全体の成長に資する施策の推進や都市機能の充実を図ります。

主な事業

連携中枢都市圏の取り組みの推進	・ 連携中枢都市圏における連携事業の推進
多様な枠組みによる連携の推進	・ 高岡地区広域圏事務組合の活動の推進

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
第2期とやま呉西圏域都市圏ビジョン 計画期間中に立ち上げた新規連携事業数	—	2事業